

長野日報

Nagano Nippo

ご購入ありがとうございます

5月2日(土)

発行所 長野日報社

〒392-8611 諏訪市高島3 ☎0266-52-2000(代)

©長野日報社2020

駒工で遠隔講義

テレビ会議 システム活用 3年生が自宅から参加

駒ヶ根工業高校(駒ヶ根市)は4月30日、テレビ会議システム「Zoom(ズーム)」を活用したテレラーニング(遠隔講義)を行った。初の試みとして、3年J組37人がそれぞれの自宅から参加。教諭と対話しながら必修科目であるソフトウェア技術の授業を体験した。

(藪原麻理子)

新型コロナ この難局を 乗り切ろう

臨時休校が続き、授業時間の確保が課題となっている。自宅での自主学習がなかなか進まないという生徒も多く、解決策の一つとしてインターネットを利用してテレラーニングを試験的に実施した。ソフトウェア技術の教科担任、竹内浩一教諭がパソコンでZoomを起動した。パソコンやスマートフォンなどを使って会議に次々と参加して

くる生徒に声が聞こえるかなどと確認。生徒に課題の取り組み状況を聞いたり、練習問題を出題したりして各種機能を体験し、インターネット回線やシステム上の不具合がないかなどを確認していた。同校の教諭10人ほどがテレラーニングの様子を見学した。生徒は「クラスメートの顔を久しぶりに見られてうれしい。普段の授業の方がいいが、休校が続くようならテレワークを進めてほしい」「トラブルが多かったので不便だが、新鮮さも感じた。進学の準備は進んでいないので不安」などと話した。



生徒と対話しながら課題の取り組み状況の確認や練習問題の出題を行う教諭ら

クラス担任の塩沢蒼教諭は「3年生は進路などで不安を抱えている。動画配信や生徒とのやりとりで不安を少しでも取り除き、進路実現に向けて活動したい」と話した。

テレラーニングで一部の機能が使いにくいなどのトラブルがあったが、竹内教諭は「やり方を工夫し、教科によっては授業ができると思う。通常の授業と同じ時間でなくても机に向かい、鉛筆を持つ時間をつくり、習慣付けたい」とした。